

会議名	平成22年度 第1回まちづくり会議（全体会議）
日時	平成22年11月8日（月） 13時30分～15時40分
場所	江南市役所 3階 第4委員会室
出席者	市民委員 【生活環境、産業分野】宮川秀男、岩井喜美子【健康、福祉分野】平松宏幸、小椋雅江【都市生活基盤分野】加藤幸治、柴田広美【教育分野】柴田熙、津田喜代治【経営、企画分野】奥村忠、【学識経験者】中田 實（愛知江南短期大学地域協働研究所所長）、武長脩行（椋山女子学園大学文化情報学部教授）
	市職員 永井嘉信（第1分科会）、安藤利継（第2分科会）、吉野賢司（第3分科会）、鈴木慎也（第4分科会） （事務局）経営企画部長、経営企画部参事兼行政経営課長、行政経営課行政マネジメントグループリーダー
議題	1. 江南市戦略計画の目標フレーム（人口、財政、土地利用）について 2. 前期計画期間における成果と課題について 3. その他
資料	1. 目標フレーム（人口・財政・土地利用） 2. 前期計画期間における成果と課題 3. 各分野の修正した指標一覧 4. まちづくり会議（分野別会議）のまちづくり評価結果 5. まちづくり会議（分野別会議）の戦略計画の見直し結果

◆ 会議結果 ◆

1. 江南市戦略計画の目標フレーム（人口、財政、土地利用）について

【人口について】

・基本計画の目標フレームのうち人口については、平成22年度の減少に転じた理由が、景気後退による外国人の減少によるものであるため、今後の傾向を現時点で判断することは、難しいということ。また、平成22年度の総人口の目標との差は、243人で、その誤差は、目標人口に対して0.24%と僅かであること。さらに、今後の人口増減に大きな影響を与える宅地開発や工場誘致などの新たな要因も、現在のところ想定されていないということ。であるため、今回は、見直しを行わず、現在の将来目標人口を引き続き継承していくこととしました。

【財政について】

・財政については、こども手当の創設、市税の落ち込み、行政改革による人件費の減額、インフラ整備を行う投資的経費の減額等を考慮し、修正することとしました。

【土地利用について】

・土地利用については、「江南市都市計画マスタープラン」を基本に見直しを行い、「土地利用構想図」にあるように、くらしのゾーン（市街化区域）を江南厚生病院周辺に拡大するなど、修正することとしました。

2. 前期計画期間における成果と課題について

・【Ⅰ生活環境、産業分野】宮川秀男、【Ⅱ健康、福祉分野】平松宏幸、【Ⅲ都市生活基盤分野】加藤幸治、【教育分野】柴田熙、【経営、企画分野】奥村忠の各分野の分科会長から、前期計画期間における成果と課題、修正した指標について説明がありました。

・いこまいCARの利用率、制度の改善について質問があり、いこまいCAR（予約便）の利用は、増加しているとの説明がありました。また、今後利用率が高まるようであれば、市場化へシフトすることも視野に入れ、検討して欲しいとの要望がありました。

・都市生活基盤分野の成果に「江南駅周辺の道路整備をしたことにより、交通混雑が緩和した」と書かれているが、通勤時間帯や雨天時は混雑が続いているように感じる。また、名鉄バス停の前の歩道は、バスに隠れて、横断者が見えないので、非常に危ないとの指摘がありました。これに対しまして、市道江南通線の一神社の交差点改良、及びその交差点から東の市道本町通線の対面通行により、江南駅前ロータリーに流入する交通量は、約2,300台減少している。また、バス停前の横断歩道については、地元商店街を含めた地域住民との意見交換を実施した結果、今の位置に決定しているとの説明がありました。

なお、都市生活基盤分野の柱1「市街地整備」の成果については、誤解を招かないような表現に修正するとの説明がありました。

→修正後「江南駅付近の交差点改良工事や交通規制の変更により、江南駅前広場を通過する車両が減少し、交通混雑が緩和されたこと。」

・都市生活基盤分野の課題に「第3次江南市総合治水計画の目標を実現する手法を具体的に考える必要がある」と書かれているが、そもそも第3次江南市総合治水計画とは、愛知県の計画に対応するものなのか、との質問があり、この計画は、新川流域の関係機関で構成した協議会が新川流域水害対策計画を策定したことを踏まえ、家屋の床上浸水被害を解消するために、今後おおむね30年間を計画期間として策定したものであり、平成12年9月に発生した東海豪雨で大きな被害を受けた新川流域を重点地区に定め、施設整備を進めていくものです、との説明がありました。

・生活環境、産業分野の商工農業の振興において、耕作放棄地の面積は減らしていく指標がたてられているが、関連して地域の魅力向上のために、市民が農業に親しみをもち、地産地消が図られている状態を測定する指標を追加して欲しいとの意見があり、検討していくとの説明がありました。

→修正後の柱4「産業振興・雇用就労」の個別目標④の指標

指標名	単位	基準値	上段:目標値 下段:実績値			説明
			H22	H25	H29	
畑地かんがい用水などの修理件数	件	255 (H18)	240	240	240	農業用施設の老朽化の度合いを測定するもの。
認定農業者数	人	45 (H18)	50	53	57	農地への作付けの状態を測定するもの。
耕作放棄地の面積	ha	208 (H17)	190	170	150	農地が有効利用されている状態を測定するもの。
市民菜園の面積	m ²	39,427 (H22)	39,427	39,827	40,227	市民が農業に親しみをもち、地産地消が図られている状態を測定するもの。
J A出荷額	千円	312,000 (H18)	312,000	312,000	312,000	農業生産の状態を測定するもの。

・歩きながら街を発見できるような、健康づくりにつなげた観光まちづくりが必要となっているとの意見があり、市では「健康の道」と称して、史跡や植物、自然の風景などを楽しみながら歩ける3つのモデルコースがあるとの説明がありました。

・これから高齢化が加速していくので、お年寄りが歩いて買い物や病院へ行くことができるような、公共交通、商店街の活性化をからめたまちづくりが必要となってくるので、そういったことを総括的に盛り込んで欲しいとの意見があり、検討していくとの説明がありました。

→修正後の第一次改訂基本計画の考え方の「新たな環境変化」

●人口減少時代の到来、少子高齢化のさらなる進展

- ◆ わが国では、未婚化・晩婚化などに伴う少子化、平均寿命が伸びたことに伴う高齢化が進み、諸外国に類を見ない速さで少子高齢化が進行しています。また、平成17年からは、人口減少も始まっています。
- ◆ 愛知県では、平成17年以降も人口増加が続いてきましたが、平成21年度は、自然増減が前年増加数を下回り、社会増減が13年ぶりに減少に転じるなど、人口推移の傾向に変化が出てきています。江南市でも、平成22年度（平成22年4月1日）には、総人口が僅かながら初めて前年度と比べ減少しました。
- ◆ 人口減少・少子高齢化のさらなる進展は、社会経済の様々な面で活力の低下をもたらすことが懸念されます。少子化に歯止めをかけるための子育て環境の整備、高齢者の暮らしを見守り支える仕組みの整備、持続可能な社会保障制度の確立、高齢者を巻き込んだまちづくりなど、社会全体での取り組みが急務となっています。

3. その他

・来年1月18日から2月1日にかけて、各小学校下で10回にわたって住民説明会を開催し、戦略計画の中期以降の基本計画の見直しについて、広く市民に説明し、その際には、各分科長さん方に、市長、副市長、部長職員とともに、ご出席をいただきたいとのご協力依頼がありました。

・来年度、平成22年度の達成状況がまとまるので、来年10月頃からまちづくり会議を開催し、平成20年度から22年度までの3か年分の達成度を検証し、江南市戦略計画達成状況報告書としてとりまとめ、広報やホームページで公表していくとの説明がありました。